

眼科から 新しい医療器械『光干渉断層計』のご紹介

今年1月に眼科に『光干渉断層計』(Optical Coherence Tomography: 以下 OCT) が導入されました。



◆ OCT とはどんな機械なのですか？

眼底に弱い近赤外光を当てて、反射光の強さと時間的なずれを検知し、この情報を処理して眼底の断面図を撮る装置です。超音波によるエコー検査ならご存知の方が多いかと思いますが、超音波のかわりに光の波を使うと考えていただくとわかりやすいと思います。造影剤を使ったり、目に触れることなく、また眩しくもなく、ごく短時間(1回の撮影が数秒以内)で検査することが可能です。

◆ 解像度は？

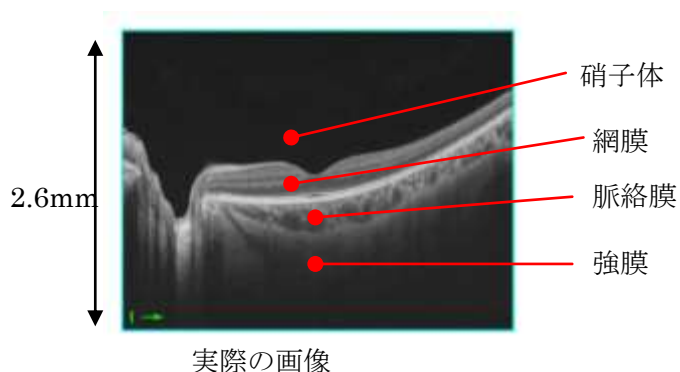
これがなんと数 μm (マイクロメートル)と精密なのです。得られる画像はまるで組織を顕微鏡で見ているかのように緻密です。それゆえ、病気のごく初期段階での診断が可能になったり、これまでよく解らなかった原因が明らかになり、治療法の進歩やその評価に役立っています。(※ $1\mu\text{m}=0.001$ ミリメートル)

◆ どんな病気がわかるのですか？

①緑内障 ②加齢黄斑変性 ③黄斑浮腫:糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などの網膜循環障害により、視力に重要な網膜の中心部分=黄斑部にむくみを生じるもの。④その他の黄斑部の形態異常:黄斑円孔、硝子体黄斑牽引症候群 ⑤中心性漿液性脈絡網膜症などです。



◆当院にこの最新の機種が導入され、これらの視力に重大な影響をおよぼす疾患を、より正確に診断し治療につなげることができるようになり、さらにきめ細かい診療が可能になりました。



光干渉断層計 (OCT)